

Amatatsu

学生広報サポーター 「PRing」

「PRing(プリング)」は、純大の魅力を発信するために作られたサークルです。Instagramの運営のほか、夏のオープンキャンパスでは学生スタッフとして活躍しています。

学生が発信!



Instagram

◆「PRing」に込められた想い◆

鹿児島純心大学の[ing](今)を[PR](広報)して、純大と人・地域を[Ring](輪)で繋げ、広げていきます。

令和6年度 白百合奨学金授与式

令和6年6月5日(水)、「白百合奨学金授与式」を実施しました。白百合奨学金は、後援会と同窓会及び学園が一体となって設立した、本学独自の奨学金制度です。本年度は18名が採用されました。奨学生代表の学生は、「食事の面で人々をサポートし、食の大切さや楽しさを伝えられる管理栄養士になれるよう、日々精進して参ります」と誓いの言葉を述べました。



令和6年度 学生会紹介

令和6年度の学生会役員15名が選出されました。学生会メンバーは、学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるよう、年間を通して様々な活動をしています。

スポーツ大会やクリーン作戦、大学祭、クリスマス点灯式など、多くの行事で学科や学年を超えて交流する機会を企画し、大学を盛り上げています。



❖ 入試日程

選抜区分	登録期間	面談日	出願期間
自己推薦選抜(第1期)	9月2日(月)~9月5日(木)	9月14日(土)	10月1日(火)~10月11日(金)
自己推薦選抜(第2期)	11月29日(金)~12月5日(木)	12月14日(土)	12月18日(水)~1月7日(火)

※出願後の独自試験はありません。

選抜区分	出願期間	試験日
学校推薦選抜(公募制・指定校制)	11月1日(金)~11月7日(木)	11月15日(金)
学園内入学選抜(秋期)		
一般選抜(前期)	1月7日(火)~1月23日(木)	2月5日(水)
共通テスト利用選抜(A日程)		
学園内入学選抜(第1期)		
共通テスト利用選抜(B日程)	2月6日(木)~2月25日(火)	3月4日(火)
一般選抜(後期)	3月5日(水)~3月12日(水)	3月18日(火)
共通テスト利用選抜(C日程)		
社会人・帰国子女・編入学選抜(秋期)	11月1日(金)~11月7日(木)	11月15日(金)
学園内入学選抜《編入学》(秋期)		
社会人・編入学選抜(第1期)	1月7日(火)~1月23日(木)	2月5日(水)
学園内入学選抜《編入学》(第1期)		
社会人・編入学選抜(第2期)		
学園内入学選抜《編入学》(第2期)	3月5日(水)~3月12日(水)	3月18日(火)

※選抜区分によって実施する学科は異なります。

SPECIAL

- ◆ 開学30周年を迎えて
- ◆ 活躍する卒業生
- ◆ 在学生インタビュー

◆ 学科・大学院トピックス

教育・心理学科
児童生徒教育コース
こども発達コース
心理・文化専攻
看護学科
健康栄養学科
大学院 人間科学研究科

◆ 就職関係情報

◆ 純大トピックス

海外インターンシップ
スポーツ大会
新入生交流会
大学祭インタビュー
川内大綱引き
はんやまつり

- ◆ 学生会紹介
- ◆ 白百合奨学金授与式
- ◆ 学生広報サポーター
- ◆ 入試日程

【お問合せ先】
鹿児島純心大学 入試広報課
☎ 0996-23-5311 ✉ ml-exa@k-jundai.jp
📍 鹿児島県薩摩川内市天辰町2365





おかげさまで30周年

カトリック精神を土台とした教育のもと
まっすぐな心を育てていきます。
これまで、これからも。



開学30年を迎えて

本学は1994年4月に川内の地にカトリック精神に基づく有為な人材の育成を教育理念とする鹿児島純心女子大学として根をおろして30年になりました。

大学設置においては当時の川内市長をはじめとする川内市当局の献身的な努力によるところが大きく感謝しているところです。

開学時は2学部2学科(国際言語文化学部 国際言語文化学科、看護学部 看護学科)でスタートしました。両学部とも高度な専門性を生かしながら国際貢献のできる人材を養成し、地域の国際化、地域の一般市民ならびに専門職の研修などの要請に応えるものでした。

現在は2学部3学科(人間教育学部 教育・心理学科、看護栄養学部 看護学科 健康栄養学科)ですが、この30年の歩みの中で、最も大きな時代の変化は日本が直面している高齢化社会と少子化であり、加えてSociety5.0という新たな社会を迎えたことです。それらの時代の変化を読みつつ教育活動に反映すべく取り組んできたところです。

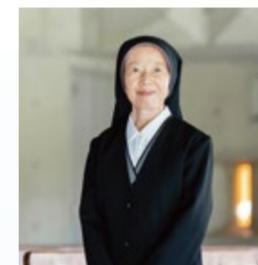
さらに2023年には多様化する時代を踏まえ、自他を尊重する心を育て、若者に寄り添い、「人を想う、人と輝く」人間の育成がカトリック大学の使命であることを全教職員で確認し、男女共学とし「鹿児島純心大学」と名称を変更したことは30年の歩みの中で大きな変化であったと思います。

その変化を支える土台は、学園の創立者シスター江角ヤスの掲げた、「聖母マリアを理想とする個性豊かで愛と知性を兼ね備えた人の育成」の教育目標であり、創立以来その根幹は変わりません。

これまでの30年に感謝するとともに、建学の理念に基づいた個性的な大学として、教育研究の一層の充実を図り、現代の社会が抱えるさまざまな課題に応えることができる人をこれからも養成したい、そして、社会に開かれた大学としていささかなりとも地域の皆さまのお役に立ちたいと願っております。

また、異国情緒あふれる自然豊かなキャンパスで過ごされる学生の皆さんには、恵まれた立地を背景に教育・研究環境を備えた大学で、大きな夢をもって後悔のない学生生活を過ごしてほしいと願っています。

鹿児島純心大学学長
山口 明美



活躍する卒業生



さつま町立盈進小学校
こども学科(現教育・心理学科)卒 Y.N.さん

小学校
教諭

多くの実践的な学びができました

私は現在、小学校で1年生の担任をしています。「子どもと関わる仕事がしたい」と思い、多くの資格が取得できる純心大学を志望しました。

1年次から学校インターンシップや教職フィールドワークに取り組み、教育実習前に実践的な学びが多くできました。座学だけでは得られないこの経験は、現在の子どもの関わり方に繋がっていると感じます。また、先生方の手厚く温かいサポートがあり、安心して大学生活を送ることができました。子どもとのより良い関わり方に悩むこともありますが、大学での学びや先生方からの励ましが、私の支えとなっています。純心大学で学ぶことができ、本当に良かったと思います。



鹿児島純心大学
看護学科講師
看護学科卒 R.A.さん

大学
講師

純大で育まれる 「人間力」や「人との繋がり」

訪問看護の経験を生かして、学生に「在宅看護論」の講義と実習指導を行っています。

純心大学で得たものは、「人との繋がり」だと思います。色々な職種を選択した友人たちと出会ったことで、自分自身が困った時に相談でき、私自身の力を信じてくれることで何度も救われました。また、先生方も同じように「のびしろがある」と言って社会へ送り出し、その後も掛けそうになり連絡すると「自分の力を信じる」ように支えてくださいました。そのことが「人間力」を育てることに繋がり、今の私を育てていただいたと感じています。



独立行政法人 国立病院機構
南九州病院
栄養管理室 主任栄養士
健康栄養学科卒 Y.A.さん

病院
管理栄養士

きめ細やかな栄養介入の基盤は 大学生活の日常にある学びから

私は現在、国立病院機構南九州病院で主任栄養士として勤務しています。勤務の際には、患者さんの今の治療と退院後の生活の栄養管理にどれだけ寄り添えるかを大切にしています。

その際に必要なコミュニケーションスキルは、大学生活の中で、教職員の先生方や同期生との関わりからも身に付けることができたと思います。

今後も大学時代の学びを活かし、患者さんに寄り添った栄養管理を行いたいと思います。



社会福祉法人 明激会
南さつま子どもの家
運営支援部統括楠佐 心理室長
鹿児島純心女子大学大学院卒 R.W.さん

心理
専門職

大学院での学びを土台に 子どもの心に寄り添っています

私は、子どもの心理支援に携わりたいと思い、本学大学院に進学し、児童養護施設南さつま子どもの家に入職しました。施設では、入所児童のみならず、地域の困難を抱える子どもたちの心理支援を担当しています。大学院のグループスーパービジョンでは、心理療法における枠の大切さなどの重要な学びとともに、セラピストとしての感性をも得ることができました。

今も、こんなときは大学院の先生方ならどうなさるだろうかと考え、子どもたちに向き合う毎日です。

— 純大での学びとこれからの目標 —

教育・
心理学科



『なりたい自分』を目指して

教育・心理学科4年
M.K.さん(川内高等学校出身)

大学生活の中で、仲間と共に将来「なりたい自分」になるために日々学んでいます。

私の「なりたい自分」とは、何事にも積極的に自ら取り組む姿勢がある人です。これまでに大学祭の運営や地域行事の参加、ボランティア活動、頼まれた仕事をこなすなど、できることはどんなことでもチャレンジしてきました。イベント運営や他学年との交流を通して、普段の生活の中では学ぶことのできないことをたくさん学びました。何よりたくさんの「ありがとう」をもらうことができる素敵な機会でした。

このかけがえのない経験は、これから小学校の教員になるにあたって学級経営や行事の運営、上司や同僚との関わりの中で生きてくのではないかと思います。皆さんもぜひ純心大学で学び、「なりたい自分」を見つけてみてはいかがでしょうか。

看護学科



患者さんに寄り添える看護師に

看護学科4年
N.K.さん(川内高等学校出身)

純心大学では、自然豊かなキャンパスで、人に寄り添う心や豊かな心を学ぶことができます。演習や実習は少人数で、各グループに先生方が付き添ってくださり、とても丁寧で細やかな指導をしてくださります。

また、看護師国家試験受験資格だけでなく、保健師国家試験受験資格・助産師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状から1つ選択でき、自身の可能性を広げることができるのも大きな魅力だと感じています。私は看護師と養護教諭を目指しています。それぞれの学びから、より広い視野を持って、相手の話を傾聴し、関心を持って知ろうとする姿勢、小さな変化にも気付こうとする観察力、仲間との協調性を得ることに繋がりました。

純心大学での学びを活かし、患者さん一人ひとりに寄り添うことのできる看護師を目指したいです。

大学院



大学院での学びを糧に

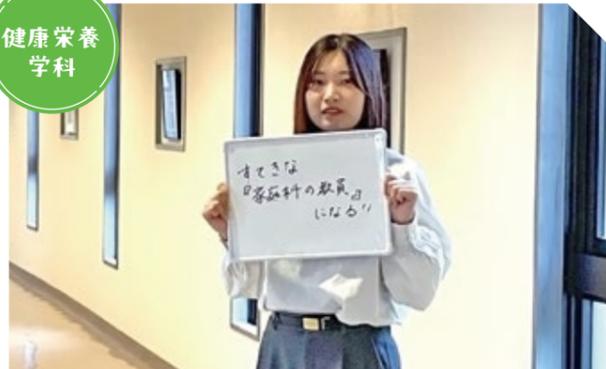
人間科学研究科 心理臨床学専攻2年
A.I.さん(神村学園高等部出身)

幅広く貢献できる臨床心理士や公認心理師を目指し、多領域で実習を行えることが純心大学の魅力です。

また、プロフェッショナルな先生方が社会へ踏み出す手助けをしてくださいます。そして勉学のみならず、神秘的な学舎のもとでの出会いが自身の人間性や生き方と向き合うきっかけとなり、純心大学での日々が成長の糧になっています。

将来は悩みを抱える方々とともに歩んでいけるよう、心を大切にできる支援者でありたいです。

健康栄養
学科



ここでしかできない貴重な体験

健康栄養学科3年
M.K.さん(国分中央高等学校出身)

私は将来、中学校の家庭科の先生になることを目標に純心大学に入学しました。また、家庭科教諭一種免許状だけでなく、管理栄養士国家資格はもちろん、栄養教諭一種免許状の取得も目指しています。

本学科では、講義や実験・実習を通して高度な知識や技術を分野別に学ぶことができるとともに、純心でしかできないアップルパイの製作・販売などの貴重な体験を通して様々な人と関わり、自分自身を成長させることができます。悩み日もあります、周りの先生方や仲間を支えられながら、充実した生活を送っています。

4年間は長いようであっという間だと感じています。日々後悔のないように、将来の目標に向けて頑張ります。

児童生徒教育コース

子どもと共に 成長する教師を目指して ～夢への原動力になった教育実習～

教育・心理学科4年 H.U.さん(甲南高等学校出身)

私はずっと先生になるのが夢で、他の夢を抱いたことがありません。その分、なりたいたいと思いつけてきた教師という職業が自分に合っているのかという不安もありました。

そんな中迎えた、初めての教育実習。自分の気持ちを確認するつもりで挑んだ1ヶ月はとても濃く、最初はうまく掴めなかったコミュニケーションのコツや授業の進め方なども回数を重ねるうちにレベルアップさせることができました。できなかったことにチャレンジし、学んだことを実生活に生かしながら日々成長する子どもたちの姿に感動を覚えると同時に、自分自身の成長も感じることができました。そしてその感動をまた味わいたいと思うほど、教師という夢のために努力しようと決意するきっかけになりました。

教師になっても学ぶことの大切さと楽しさを忘れず、子どもたちと共に成長していきたいです。



こども発達コース

幼稚園実習で学んだこと

教育・心理学科3年 K.M.さん(鹿児島情報高等学校出身)

初めての幼稚園実習に対し不安や緊張でいっぱいでしたが、指導案や日誌の書き方をご指導いただいたほか、実習園の一日見学や現場で働く先生方からの講話など、事前準備をしっかりとできました。そのため、本番前には不安はあまりなく、楽しく実習に取り組むことができました。

実習園では異年齢保育をされていて、3・4・5歳児が同じ保育室で1日を過ごしていました。同じ部屋で同じ活動をしていても、月齢によって準備するものが違ったり、子どもによって遊び方が全く違ったりと、とても興味深かったです。活動の組み立て方や子どもへの提示の仕方など、子どもが主体的に考えて楽しめる保育活動を学ぶことができました。

実習前半は子どもとの関わり方で悩みましたが、子どもたちが積極的に話しかけてくれる中で、自分なりの子どもたちとの関わり方を見つけることができました。

実際に子どもたちと関わらなければ気付けないことを多く学ぶことができた、とても実りある実習でした。



心理・文化専攻

I enjoy my campus life !

教育・心理学科3年 S.K.さん(錦江湾高等学校出身)

私は、令和6年3月に行われた鹿児島マラソンに出場しました。これまでもマラソンを数回走っていますが、完走後の達成感は素晴らしいものです。このことを心理学の先生方に話したところ興味を持たれ、一緒に参加することになりました。

さらに、先生方は純心大学Tシャツを作ってくださいました。「純大生がんばれ！」と沿道の方々に応援いただき、モチベーションを高めてくれました。

趣味で走っていたことが今回このような形で輪が広がり、たくさんの方々の目に留まるとは思っていませんでした。もちろん走ることはきついです、私はよくゴールした瞬間の自分の姿を想像します。誰も思い通りいかず人と比べるかと思いますが、ベストを尽くしている自分を想像してみると気持ちが軽くなるかもしれません。これからも授業を通して人間理解と心のケアを学び、好きなことを極め、関わる方々と笑顔いっぱいのキャンパスライフを送りたいです。



右前がS.K.さん

看護学科4年次生・保健師選考者対象 「地域組織協働論」

看護学科 又木 真紀子 助教

「地域組織協働論」は、住民同士の繋がりを基盤とした互助活動を、地域組織との協働を通して支援する手法について学ぶ授業です。薩摩川内市社会福祉協議会より講師をお招きして、個別課題から地域課題へ、暮らしやすい地域をどのように作っていくか、仕掛けていくかという保健師活動と共通する手法について学修しました。

「支え合いマップづくり」演習では、地域に暮らす人々の困りごとを解決するために、地域住民が知恵や意見を出し合う場面をロールプレイし、支え合いや繋がりの重要性和、そこから地域課題の解決へと支援していく専門職の役割を学ぶことができました。



先輩から後輩へ 引き継がれていくアップルパイ

健康栄養学科 真邊 久美 講師

純心のアップルパイの歴史は、戦後まもない1949年Sr.酒井ミヤ子先生がペンシルベニア州の大学に留学され、帰国の際にレシピを持ち帰ってこられたことから始まります。酒井先生は、大学の庭にたわわに実ったリンゴが収穫されずに落ちているのを見て、現地のシスターにアップルパイの作り方を習いました。純心のアップルパイは、SDGsの考えから始まっていたのです。その後、酒井先生は鹿児島純心女子短期大学の初代学長となられ、アップルパイも長崎から鹿児島へと伝わりました。バザーで販売されたアップルパイは長蛇の列で、その売上金は、日本をはじめ世界中で困っている方々や純心聖母会のシスターを派遣しているブラジルの診療所や託児所への寄付金となりました。

純心のアップルパイ、実は長崎と鹿児島では違いがありました。長崎は表面をパイ生地で覆い「心」の文字をモチーフにした校章をあしらひ、鹿児島は表面を格子状にしたものでした。私達、鹿児島純心大学で作成するアップルパイは、長崎バージョンのシスター直伝に加えて、先輩方から継承された方法で作成します。今年も6月1日、3年生の先輩から2年生の後輩へ、アップルパイの引き継ぎ会が行われました。代々の先輩方から受け継いできた、レシピには書かれていないコツや思いを学生同士で共有しておりました。

今年も大学祭の2日間でアップルパイの販売を行います。楽しみにして下さるすべての皆様にお届けすることができたら良いのですが、作成個数に限りがあります。皆様に安全に、そして公平にお届けするためにはどうしたら良いのか、2年生だけでなく純大祭実行委員、先生方にもご協力いただき話し合いを重ねてきました。その結果、今年は販売を「抽選」とすることになりました。詳細は右記をご覧ください。

2年生一同、心を込めて作成します。ぜひ、大学祭を楽しみつつ、また純心のアップルパイをご賞味ください。



大学祭でのアップルパイ販売 10/26(土)・27(日)各日の予定

- 〈販売個数〉 —
 - ◆ホール 100個
 - ◆1/4カット 80個
- 〈販売値段〉 —
 - ◆ホール 1800円
 - ◆1/4カット 450円
- 〈抽選券配付場所〉 —
サンタマリア館玄関外
- 〈抽選券配付時間〉 —
 - ◆午前の部 9:00~9:45
 - ◆午後の部 12:15~13:00
- 〈抽選発表・引き換え場所〉 —
サンタマリア館1Fエントランス
- 〈抽選発表・引き換え時間〉 —
 - ◆午前の部 10:30~11:30
 - ◆午後の部 13:45~14:45

修士論文の執筆 ~大学院生活の集大成~

人間科学研究科 笹川 裕美 助教



大学院では、2年間かけて修士論文を執筆していきます。研究に取り組むことは、心理専門職にとって重要な活動の1つです。修士論文の作成を通し、創造的に研究する力を養い、自らの心理臨床の関心を深めます。大学院生は、1年次から「特別研究」を履修、指導教員の指導の下でテーマを設定し、ゼミで相談をしながら進めていきます。

本学大学院では、修士論文を提出するまでに、報告会を3回実施しています。報告会には大学院の教員や大学院生全員が参加し、自由に意見を出し合います。修士論文に取り組む大学院生を全員で支えられるような体制を目指しています。

修士論文提出後、大学院生は公開審査会と口頭試問に挑みます。審査に合格すると修了に一步近付くということになります。

修士論文の作成には苦しみも伴います。研究テーマを明らかにするために文献を読み、調査を行い、結果を導き出し、時に方向転換や書き直しが生じることもあります。ですが、大学院生活の集大成として修士論文を書き上げたときの達成感は大いであり、かけがえのない経験になることも確かだと思えます。

就職支援の取り組み

令和5年度就職活動を振り返って

令和5年度就職状況の特徴は、新型コロナウイルス感染症の影響がほとんどなくなり、さらに全国的な人手不足も拍車をかけ、人材獲得競争が激しく、学生優位の売り手市場となっておりました。それぞれの学科が専門性を生かして、令和5年度は就職率100%を達成することができました。

キャリア教育の充実

本学では、学年に応じた指導と、時代や企業等のニーズに応じたキャリア教育を実施しております。

1年生では新入生セミナー、2年生では進路ガイダンス、3年生ではキャリアセミナー、3年・4年での個人面談などです。また、インターンシップ、卒業生と語る会、国家試験体験発表会、4年生に聞く就活、教員採用試験対策講座、公務員試験対策、一般教養特別講座などがあり、それ以外にも教員養成センター実施の学校インターンシップ、教職フィールドワークなどがあります。

ユニークなところでは、1年生対象「マナー講座(身だしなみとメイク)」、2年生対象「マナー講座(思いやり・考えるマナー)」、看護1~3年生対象「看護職としてのマナー講座」、インターンシップ事前研修での「マナー講座(社会人のマナー、名刺交換)」など、社会人としての基礎を身に付ける講座もあります。

今年からの取り組みとして、全学年対象「生成AIを活用した就職活動とリテラシー」、企業からのアンケート結果に基づき昨年から導入した2年生対象「コミュニケーション力アップ講座」、4年生対象「ストレス対策講座」などもあります。

このように社会に貢献できる人材の育成を目指し、段階的に、内容等を更新しながらキャリア教育を行っております。

今後、ますます人材獲得競争が激しくなり、民間の就職活動に加え、公務員・教員採用試験などの早期化も加わることが考えられます。学生一人ひとりが希望を叶えられるよう、より一層、全学体制でサポートして参ります。



❖ 令和5年度卒業生の就職・進学状況

教育・心理学科	看護学科	健康栄養学科
就職率 100%	就職率 100%	就職率 100%
〈就職〉 ● 小学校教諭 ● JA鹿児島県連 ● 中学校(英語)教諭 ● 鹿児島銀行 ● 特別支援学校教諭 ● 加世田聖母幼稚園 ● デル・テクノロジーズ ● 石原学園 他 ● JALスカイ 〈進学〉 ● 鹿児島純心大学大学院	〈就職〉 ● 鹿児島大学病院(看護師・助産師) ● 鹿児島市立病院(看護師・助産師) ● 東京慈恵会医科大学病院 ● 大阪大学医学部附属病院 ● 九州がんセンター ● 米盛病院 ● 保健師(鹿児島県2名、鹿屋市) 他	〈就職〉 ● 鹿児島大学病院 ● JALロイヤル ● 鹿児島厚生連病院 ● ケータリング ● 出水広域医療センター ● 日清医療食品 ● 国立病院機構 西別府病院 ● 和田保育園 ● 国立病院機構 宮崎東病院 ● 高校教諭(家庭) 〈進学〉 ● 鹿児島大学大学院

海外インターンシップ

本学には、「日本語教師アシスタント」として派遣され、約10か月間オーストラリアの中学校・高校で日本語教育の助手を行う留学プログラムがあります。現在、海外インターンシップに参加中の教育・心理学科 S.A.さん(松陽高等学校出身)にお話を伺いました。

「海外インターンシップ」に参加しようと思った理由・きっかけは？

中学校の英語教員を目指す中で、「第二言語を教える」ということに興味を持ったのがきっかけです。オーストラリアで日本語を学んでいる生徒たちは、第二言語として日本語を学んでいます。オーストラリアの教育や生徒の実態を、実際に見て、関わりを通して学びたいと強く思いました。加えて、大学での日本語文法などの講義を通して、日本語の美しさや面白さにも気付いたので、それを海外の生徒たちに伝えたいと思いました。また、私は世界の文化にも興味があり、多文化社会であるオーストラリアで、その土地でしかできない貴重な経験をしたかったのも理由の一つです。

一留学中の1番の思い出は何ですか？

たくさんのことを経験しましたが、特にスクールホリデー期間に行ったロットネスト島が一番思い出に残っています。パースからフェリーで30分ほどで行ける有名な島です。世界一幸せな動物とされている「クオッカ」と2ショットを撮り、おいしいサンドイッチも食べました。海も山もとても綺麗で感動しました。自転車で島を一周したのですが、気付けば23kmも走っていて驚きました。足は筋肉痛になりましたが、とても良い思い出です。

毎日が本当に充実しています！



「海外インターンシップ」の経験を通して自分の中での変化や成長したと思う点は？

オーストラリアに来て約5か月。毎日本当に充実していて、あっという間に1日が過ぎます。生徒や日本語チームの先生方、そして他の言語の先生方、ホストファミリーやそのお友達など、多くの方々との関わりを通して、日々成長させてもらっています。実際に学校現場で働くということを通して、自分の仕事への責任感を強く持つようになりました。日本語の先生方だけでなく、他の言語の先生方からも、教材のラミネートやコピーを頼まれます。期限をしっかりと聞いて、尚且つ早く仕事をするので信頼が築かれていくのだと感じています。フランス語の先生は、私にいつも「Thank you Darling.」と言ってくれます。とても嬉しいです。

また、自分の思っていることをしっかりと口に出すことの大切さも学びました。ホストファミリーと生活していく中で、私が英語で言いたいことが上手に言えないため、話すのが億劫になってしまったことがありました。しかし、言葉に出さないと自分の思いは伝わりません。そして頑張って伝えようとしたら、ホストファミリーは必ず理解してくれます。受け身の姿勢になるのではなく、自分からアクションを起こす大切さを学び、一歩成長できた気がします。

大学祭インタビュー

White Lily Festival 大学祭が4年ぶりの対面開催！

令和5年10月21日(土)・22日(日)の2日間、大学祭「White Lily Festival」を4年ぶりに対面で開催しました。大学祭のテーマは「restart—新たな仲間と共に—」。このテーマには、「共学になった新純心大学として、ここから新しい一歩を踏み出したい」という思いが込められており、実行委員会および学生会を中心に準備をしてきました。

今回は、大学祭で広報部長を務めた教育・心理学科4年 M.O.さん(指宿商業高等学校出身)にお話を伺いました。

一大学祭広報部長を務めたきっかけや自身の成長や変化を教えてください。

きっかけは、運営の立場から大きな行事に携わりたいと思ったことです。正直、自分が役員をすることは全く想像していませんでしたが、良い経験になると考え、広報部長を引き受けることを決めました。

自身の変化としては、手伝ってくれる人に仕事を任せられるようになったことです。初めのうちは全部自分でこなさなければならぬという思いから、協賛して下さった182社の情報をすべて管理し、文書やポスターの作成などの業務を自分と先生方で行っていました。しかし、ミスが出たり、時間がかかったりすることもあり、他の学生にも協力してもらうようになり



左がM.O.さん

ました。分担しながら準備を進めることで実行委員同士の連携も深まり、大学祭当日も、お互いにフォローし合って全日程を終えることができました。

一準備期間中に苦労したことは？

一つ目は、協賛して下さる企業を集めることです。広報部役員が中心となり、実行委員全員に3~4社の企業を訪問してもらったり、学生のアルバイト先に依頼したりと、多くの企業にご協賛いただけるように工夫しました。

二つ目は、計画した日程通りに作業が進まなかったことです。自分の業務を把握しきれておらず、協賛企業の契約内容の確認やポスターの作成が遅れてしまい、文書の発送やポスターの掲示が大学祭直前になってしまいました。

一大学祭での思い出は何ですか？

1番の思い出は、役員数名で学内に泊まったことです。準備や片付けのために寝泊まりしましたが、友人の誕生日パーティをしたり、簡易ベッドや寝袋を使って睡眠をとったりと、交流が深まった時間でした。だんだんと疲れも溜まっていく中でしたが、リフレッシュをしながらみんなで乗り越えることができ、大学祭実行委員ならではの思い出を作ることができました。



熱気あふれたスポーツ大会！

令和6年5月2日(木)、学生会主催でスポーツ大会を実施しました。今年度は5年ぶりに全学科・学年が一堂に会してのスポーツ大会となり、バレーボールやドッジボール、障害物リレーなど、各学科・学年対抗の熱戦と応援が繰り広げられました。男女共学化2年目となり、男子学生・女子学生共に楽しみ、助け合い、応援し合い、終始学生・教職員の笑顔が見られる大会となりました。



新入生交流会を開催しました

令和6年5月11日(土)に、「新入生交流会」を開催しました。新入生にとっては、少し慣れてきたようで、まだ不安も抱える時期。そんな不安や悩みを解消するため、毎年、各学科の上級生が企画・運営し、実施しています。

勉強方法や実習、サークル活動、勉強とアルバイトの両立方法など、学生の視点から多くのアドバイスがありました。また、レクリエーションや、健康栄養学科ではパーベキューなどを通して、友人・上級生・教職員との交流を深めたようです。



「川内大綱引」に男子学生が参加！

令和5年9月22日(金)、県指定無形民俗文化財「川内大綱引」が4年振りに開催され、民俗学が専門であり、川内大綱引調査委員会の委員長も務めた教育・心理学科の小島摩文教授の声掛けにより、男子学生5名が参加しました。

サラシ姿の約3000人が重さ7トン、長さ365mの大綱を引く様子に観客も昂ります。最後は市民も交えての引きとなり、結果は綱が切れ、引き分けとなりました。コロナ禍を経て復活した地元が誇る伝統行事に参加させていただき、貴重な機会となりました。



「薩摩川内はんやまつり」4年ぶりに参加しました

令和5年11月5日(日)に開催された「薩摩川内はんやまつり」の総踊りの踊り連に、1年生・教職員および2年生有志約100名が参加しました。コロナ禍を経て4年ぶり、そして男女共学の「鹿児島純心大学」として初の参加となった今回。学生・教職員ともに、練習の成果を発揮しつつ、楽しみながら踊る様子が伺えました。

貴重な体験となりました！

